

夏季合同研修を終えて

8月17日(木)に行った「きさ」小中一貫教育推進協議会夏季合同研修会では、吉舎中学校の原寄教諭の数学の模擬授業を行いました。研究主題である



「自学力の育成」に向け、小中学校で共通に取り組んでいる授業の視点で授業観察を行いました。今回は、「授業が学習者基点の深い学び（主体的な学び）になっているか」という視点で授業を観察しました。本時は、エキスパート活動・ジグソー活動を取り入れ、主体的に学ぶ課題設定になるように授業展開を考えました。

当日は、高知大学特任准教授の杉田郁代先生に「模擬授業への指導・主体的な学び



に改善するためのポイント」と題して指導をしていただきながら、ファシリテーターとして、これからの授業改善への方向を示していただきました。

○知識構成型ジグソー法（4人班）流れ

- ①クラス全体に課題を提示
 - ②課題解決に向けた4種類の取組課題の提示
 - ③一人で考える（個人思考）
 - ④同じ取組課題グループで順番に考えを述べる（集団思考）
 - ⑤通常のグループに戻り、取組課題について説明をする
 - ⑥4人の説明を聞いて課題を解決する
- *チェックポイントを入れて、知識の確かめを行う。

○授業づくり～教科で学んだ用語を使って話し合いを行う～

- ・話し合いの中で、教科の専門用語を用

いて話し合いができるような工夫が大切です。

- ・本時のキーワードを明確にしておられますか。
- ・キーワードの掲示（板書やワークシート）理解が進んでいる証拠にもなります。



○グループ学習効果は

授業＝教科指導×生徒指導

- ・エキスパート活動でわかってきた内容をグループを変え説明し合います。グループでは、元の資料を知っているのは自分一人なので、自分の言葉で自分の考えが伝わるように説明することになります。この活動が、自分の理解状況を内省したり、新たな疑問を持つ活動につながります。

○演習「ワールドカフェ（ジグソー法変形）」

「このジグソー学習をステップアップさせるためには？」というテーマで、全体で5つの班に分かれ、演習を行いました。ポイントとしては、「書きながら話す」「グループでの会話を楽しみながら書いていく」です。そして、聞きながら気づいたことをどんどん書き加えていき完成させます。出来上がると、2人以外は他のグループを周り説明を受け、ポジティブコメントを加えていきます。最後には、たくさんのアイデアが書き込まれたものが、各班（5枚）で完成しました。公開研究会へ向けて、授業の方向性や多くのヒントを頂くことができました。